

遺伝子医学 MOOK 18 創薬研究への分子 イメージング応用

佐治英郎 編

メディカルドゥ/B5・228頁・5,400円

最近、「分子イメージング」という言葉をあちらこちらで耳にする。専門の学会・研究会でなくても、分子イメージングの手法を用いた彩り豊かな画像・動画に触れる機会が増え楽しみの1つとなっているし、またその普及に驚きもしている。この進展著しい分野を勉強するのにちょうどよいMOOKが出版さ

れた。

本書は、特にPET(陽電子放射断層撮影)・SPECT(単一光子放射型コンピュータ断層撮影)などの放射線を利用する分子イメージング(核医学イメージング)を中心的に採り上げている。これらは組織深部を含めた生体全体のイメージングが可能であり、高い感度と定量性を特徴とする。

内容は2部構成となっている。第1章では、分子イメージング技術を医薬品開発に応用するための基本要素—対象となるバイオマーカーの同定、最適な分子プローブの開発、イメージング機器の開発—について分かりやすく解説している。日本および欧米の研

究体制の現状と展望についても触れている。第2章では、創薬研究における具体的な利用法・取り組みが紹介されている。例えば、マイクロドーズ臨床試験や、抗がん剤・動脈硬化治療薬等、様々な疾患別の医薬品開発における応用例が述べられている。

安全性が高く効率的な医薬品開発に向けて、ますますこの分野の進展が予感されるし、期待もしたい。

深澤征義 Masayoshi FUKASAWA

※以上の本は、日本薬学会「薬学情報コーナー」で閲覧できます。